ラミネートベニアのデメリットと後悔を防ぐポイント｜費用や寿命も解説



https://stock.adobe.com/jp/images/cropped-shot-of-a-young-caucasian-smiling-woman-before-and-after-veneers-are-installed-isolated-on-a-white-background-teeth-whitening-dentistry-dental-treatment-the-result-of-veneers-installation/525829522

ラミネートベニアは、歯の色や形を短期間で整えられることから、前歯の見た目を改善したい方に選ばれている治療です。

一方で「治療にデメリットはないのか」「治療後に後悔しないか」「将来的にどのくらい費用がかかるのか」など、不安を感じている方も多いのではないでしょうか。

実際、ラミネートベニアには歯を削ることをはじめ、仕上がりや耐久性、虫歯のリスク、維持費など、治療前に知っておきたいデメリットが複数あります。

本記事では、ラミネートベニアのデメリットを中心に、後悔に繋がりやすいポイントや、ラミネートベニア以外の治療方法についても詳しく解説します。

ラミネートベニアとは



https://stock.adobe.com/jp/images/a-beautiful-moment-of-trying-on-a-ceramic-veneer-on-the-lower-jaw-using-a-dental-probe/888156065

ラミネートベニアは、歯の表面に薄いセラミックを貼り付けて見た目を整える審美歯科治療の1つです。

最大のメリットは“治療期間の短さ”にあり、歯の色や形など患者の希望に合わせてラミネートベニアが作成され、数週間程度で治療が完了するのが一般的です。

このような利点から「すぐに理想の口元を手に入れたい」「結婚式などのイベントまでに治療を終わらせたい」といった希望を持つ方を中心に支持されています。

なお、似た治療方法に「セラミック矯正」がありますが、セラミック矯正が歯全体を大きく削って土台にするのに対し、ラミネートベニアは歯の表面を約0.3～0.5mmほど削る治療であることから、健康な歯を必要以上に失わずに済む点も特徴と言えます。

ラミネートベニアのデメリット



https://stock.adobe.com/jp/images/before-and-after-fixation-for-huge-gap-between-front-teeth-or-incisors-diastema/712070918

ラミネートベニアは「すぐに理想の口元を手に入れたい」といった希望に沿う治療方法ですが、デメリットも存在します。

具体的なデメリットは、主に次のとおりです。

- ①一度削った歯は元に戻せない
- ②理想の仕上がりにならないことがある

- ③欠けたり外れたりすることがある
- ④治療後に歯がしみることがある
- ⑤治療した歯が虫歯になりやすい
- ⑥保険が使えず費用が高額になりやすい
- ⑦将来的に交換が必要になることがある

①一度削った歯は元に戻せない

ラミネートベニアは歯を削る量を抑えることができるものの、不可逆的治療（元に戻せない治療）であることに変わりなく、削った歯を元の状態に戻すことはできません。

ラミネートベニアは1回あたりの削合量こそ抑えられますが、ラミネートベニア本体や接着剤には寿命があり、概ね4～10年で修正や交換が必要になることが一般的です。

この際、再び歯を削るケースも少なくなく、10年～20年と年月を重ねて再治療を繰り返した結果、歯の表面の大部分を失ってしまう、といった事態になる場合もあります。

どの程度削る必要があるかは患者ごとに異なりますが、「ラミネートベニアだから少ししか削らない」と安易に考えず、その後の再治療によるリスクもよく考えておくことが大切です。

②理想の仕上がりにならないことがある

ラミネートベニアは、希望していた見た目に仕上がらないことがあります。

例えば、すきっ歯を治すためにラミネートベニアを施したが、歯の横幅が広がり前歯だけが大きく見えてしまうケース。変色した歯をしっかり隠そうとした結果、白さは改善できても透明感がなく人工的な歯の印象になってしまうケース等々が挙げられます。

仕上がりにこだわる場合は、歯の色や形はもちろん、幅や長さ、透明感、笑った時の口元まで含めて設計してもらえるかを確認しておきましょう。

医院によっては模型やモックアップを使って完成イメージを共有してもらえる場合もあるため、希望の仕上がりと実際に実現できる範囲をすり合わせてから治療を進めることが重要です。

③欠けたり外れたりすることがある

ラミネートベニアは、強い力が加わると欠けたり外れたりすることがあります。

特に注意したいのが、歯ぎしりや食いしばりの癖がある方です。前歯で硬いものを噛む習慣であれば意識して避けられますが、睡眠中の歯ぎしりは自分では気づきにくく、知らないうちにラミネートベニアへ負担をかけ続けてしまうケースもあります。

ラミネートベニアが外れただけであれば再接着で済む可能性はありますが、大きく破損した場合は基本的に作り直しとなるため費用はもちろん、再び歯を削る必要が出てくる点もデメリットです。

したがって、歯ぎしりや食いしばりがある方は、そもそもラミネートベニアが適しているかを治療前に確認してもらいましょう。必要に応じて歯ぎしり防止用のマウスピースを使用するなど、装着後の破損を防ぐ対策も必要になります。

④治療後に歯がしみることがある

ラミネートベニアの治療後は、冷たい飲み物や食べ物などが歯にしみることがあります。

歯の表面には、刺激から歯を守るエナメル質があり、その内側には刺激に敏感な象牙質があります。ラミネートベニアの施術を繰り返すと、この象牙質が露出することがあり、冷たいまたは熱い食べ物や飲み物をはじめ、歯磨きの刺激でも痛みを感じる場合があります。

もともと知覚過敏がある方は、治療後に症状が悪化する可能性も含めて事前に相談しておきましょう。治療後に日常生活へ支障が出るほどの痛みが続く場合は、我慢せずに歯科医院を受診することが大切です。

⑤治療した歯が虫歯になりやすい

ラミネートベニアを施した歯には、歯とセラミックの境目が生まれるため、そこに汚れが蓄積すると虫歯になる恐れがあります。

特に注意したいのが、歯茎に近い部分や歯と歯の間です。一般的な歯ブラシだけでは汚れを落としきれないことも多く、土台となっている天然歯はもちろん、周囲の天然歯にも虫歯が広がる可能性があります。

なお、虫歯治療では黒ずんだ部分を削り落とすことが一般的であり、言うまでもなく歯の形状そのものが変わります。ゆえにラミネートベニアを再装着するにしても、作り直しが基本となります。

総じて、ラミネートベニア後はこれまで以上の口腔ケアが不可欠です。歯ブラシだけでなくフロスなどを使ったセルフケアをはじめ、定期的な歯科検診も重要になります。

⑥保険が使えず費用が高額になりやすい

ラミネートベニアは、基本的に自由診療となるため、治療費は全額自己負担です。

費用相場は1本あたり7万～18万円程度ですが、実際には1本だけ治療するよりも、前歯の色や形をそろえるために複数本をまとめて治療するケースが一般的です。

例えば、上顎の前歯6本を治療する場合は42万～108万円程度、上下顎の前歯12本を治療する場合は84万～216万円程度が目安となります。

もちろん、実際の費用は使用する素材の種類や歯科医院の料金設定によって異なりますが、まとまった本数を治療する場合は数十万円から100万円を超える予算が必要になることも珍しくありません。

本数が増えれば、再治療の可能性が高まる他、再治療にかかる費用も自己負担となるため、施術後の維持費についても前もって計算しておくことが重要です。

⑦将来的に交換が必要になることがある

ラミネートベニアは、一生使い続けられるものではありません。

適切に管理した場合の寿命は10～15年程度が目安とされていますが、実際の交換時期は歯の状態や噛み合わせ、日頃のケアなどによって異なります。欠けや脱離、虫歯などが起これば、それより早く交換が必要になることもあります。

また、破損していなくても加齢や歯周病で歯茎が下がり、歯とラミネートベニアの境目が目立つようになるなど、見た目の変化を理由に作り直しを検討するケースもあります。

特に若いうちに治療を受ける場合は、生涯のうちに複数回の交換が必要になる可能性も考えておくようにしましょう。

ラミネートベニアのリスクが心配な方におすすめの治療法



https://stock.adobe.com/jp/images/dentist-shows-the-patient-s-ideal-smile-after-veneers-or-whitening/1807157430

「歯の見た目は整えたいものの、健康な歯を削ることには抵抗がある」という方は、歯を削る量を抑えることを重視した治療も選択肢になります。

代表的なものが、下記の3点です。

- ミニッシュ
- ゼロネイト
- ブラックフィルム

ミニッシュ



出典：MINISH

公式サイト	https://minishtech.com/ja/
治療費	1本あたり15万円程度（医院によって異なる）
国内での治療	可能（認定院あり）

ミニッシュ（MINISH）は、歯の表面を極力削らずに歯の表面に天然歯のエナメル質に近い材質のチップを貼り付けて歯の形や色・並びを整える歯の修復ソリューションです。

従来のラミネートベニアよりも削る量が1/5以下（0.1～0.2mm）と少なく、前歯だけでなく奥歯にも適用可能な点が特徴。虫歯や欠けた歯を元の形に修復する用途から広まり、韓国では2009年の研究開始以来15万件以上の臨床実績が報告されています。

2021年に韓国で「健康な歯を犠牲にせず見た目も改善したい」というニーズから誕生し、これまでに韓国アイドルやセレブといった様々な芸能人が治療を受けています。

仕上がりは非常に自然で、自分の歯と見分けがつかないほど馴染むため、美観と歯の健康を両立できる革新的な治療法として注目されています。

関連記事：ミニッシュとは？値段やデメリットを治療した芸能人を紹介

ゼロネイト



出典：TU Dental Clinic JP

公式サイト	https://tudentalglobal-jp.imweb.me/
治療費	1本あたり約10.5万～20万円（ウォンから円への換算）
国内での治療	不可

ゼロネイト（ZERONATE）も、天然歯をほとんど削ることなく、歯の色や形を理想的な状態へと改善する最先端の審美歯科治療です。

0.01mm～という極めて薄い独自のラミネートベニアであるのが特徴であり、これにより歯の健康寿命を最大限に維持しながら審美性を高める「オーラルスキンケア」という新しい価値観を提供しています。

実績も豊富であり、現時点で75,000件以上という施術実績が報告されており、その自然な仕上がりと安全性から、美容への関心が高い芸能人やインフルエンサーにも支持されています。

なお、2026年10月現時点でゼロネイトの治療は日本国内では受けられず、治療を希望する場合は提供元の「TU歯科」(韓国・ソウルの江南)に足を運ぶ必要があります。

関連記事：ゼロネイトとは？料金・寿命・治療の流れなどをわかりやすく解説

ブラックフィルム



出典：의료진 소개 — 2D Dental Clinic – 무삭제라미네이트

公式サイト	https://2d2d.co.kr/
治療費	1本あたり25万円程度（医院によって異なる）
国内での治療	可能（認定院あり）

ブラックフィルム（BLACK FILM）は、韓国の歯科医院「2D Dental Clinic」から広まった審美歯科治療であり、前述の2つの治療と同様、歯の表面に0.1mm以下のセラミックを貼って、色・形・大きさ・表面の質感を調整するのが特徴です。

2D Dental Clinicは、2016年から前歯のノンプレップベニア治療を行っており、ブラックフィルムの開発者であるキム・ヒョンモ代表院長を中心に、前歯の見た目に特化した治療体制を整えています。

日本へは2025年4月に上陸し、国内でも治療を受けられるようになっていますが、症例数や担当医の経験、治療後のメンテナンス体制まで確認することが大切です。

関連記事：歯の治療「ブラックフィルム」とは？メリット・デメリットや費用を解説

ラミネートベニア以外の治療の選択肢



https://stock.adobe.com/jp/images/a-young-woman-does-a-home-teeth-whitening-procedure-whitening-tray-with-gel/435570827

歯の悩みによっては、ラミネートベニア以外の治療でも改善を目指すことができます。

代表的な選択肢は、主に下記の3つです。

- ホワイトニング
- 歯列矯正
- ダイレクトボンディング

ホワイトニング

歯の形や並びに大きな不満がなく、黄ばみだけを改善したい方にはホワイトニングが有力候補です。

ラミネートベニアのように「完璧な白さ」を追求する場合は実現が難しいケースがあるものの、薬剤を使って天然歯そのものを白くする治療のため、ラミネートベニアのように歯を削る必要がありません。

歯の寿命はもちろん、治療費や維持費についてもラミネートベニアより負担が少ないため、見た目・歯の寿命・コスパのバランスを取りたい場合には検討の余地は大いにあると言えるでしょう。

歯列矯正

歯の位置や噛み合わせそのものを改善したい方には、歯列矯正が有力候補になります。

ラミネートベニアは歯そのものを動かすことはできず、また前述のとおり、すきっ歯の修正にラミネートベニアを施すと、歯の横幅が広がって前歯だけが大きく見えてしまうようなケースがあります。

総じて、歯列矯正は短期治療が難しい側面はありますが、歯並びに関する悩みを根本的に解決できる可能性があります。特に、すきっ歯や出っ歯に悩んでいる場合は先に歯列矯正を検討するのがおすすめです。

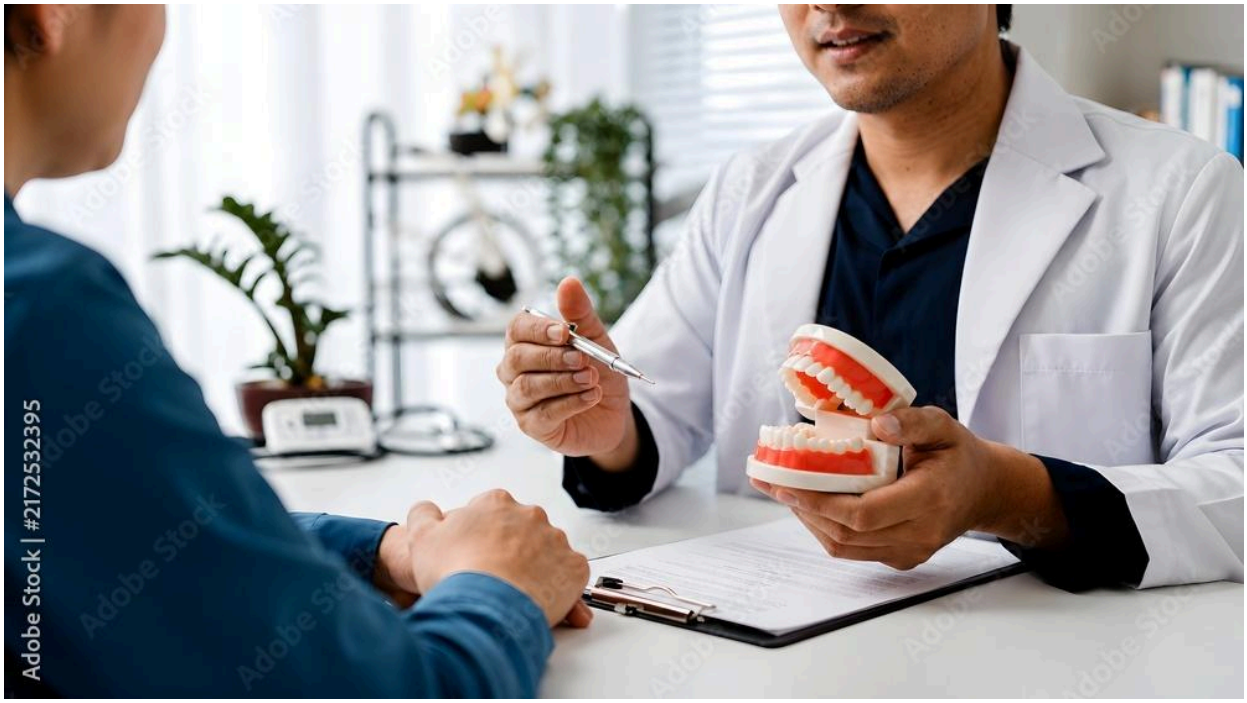
ダイレクトボンディング

前歯の欠けなど、気になる範囲が限られている場合はダイレクトボンディングも選択肢になります。

ダイレクトボンディングは、歯の色に合わせた樹脂を直接盛り付けて形を整える治療です。例えば、前歯の先端が少し欠けているだけであれば、その部分を補うことで歯を削らずに済む場合があります。

ただし、樹脂はセラミックと比べて変色や摩耗が起こりやすく、時間が経つと境目や色の違いが目立つことがあります。広い範囲を埋める場合や強い力がかかる場所では適さないこともあるため、医師との相談の上で治療の判断を決めるようにしましょう。

ラミネートベニアで後悔しないためのポイント



https://stock.adobe.com/jp/images/dentist-explaining-complex-dental-procedure-to-patient-holding-a-jaw-model-and-pointing-with-a-pen-discussing-effective-treatment-options-in-a-modern-clinic-office/2172532395

ラミネートベニアで後悔しないためのポイントは、次のとおりです。

- 仕上がりを歯科医師と共有する
- 費用総額と保証内容を確認する
- セルフケアと定期検診を続ける

仕上がりを歯科医師と共有する

具体的な仕上がりのイメージがある場合は、「白くしたい」「自然にしたい」といった抽象的な表現だけでなく、どの部分をどのように変えたいのか、詳細を歯科医師と共有しておきましょう。

医院によっては、模型やモックアップなどを使って治療前に完成イメージを確認できる場合もあります。特に仕上がりを重視してラミネートベニアを受けるのであれば、こうした事前確認をどこまで行っているかも医院選びのポイントになるでしょう。

費用総額と保証内容を確認する

ラミネートベニアは自由診療であり、医院によって料金体系や保証内容が異なります。

特に確認したいのが、1本あたりの料金にどこまでの費用が含まれているかです。検査や仮歯、接着、噛み合わせの調整などが別料金であれば、広告や料金表の金額より支払額が高くなる場合があります。

保証についても、単に「5年保証」といった期間だけを見るのではなく、何が起きた時にどのような対応を受けられるのかを確認しておきましょう。例えば、ベニアが外れた場合の再接着と、割れた場合の再製作では保証条件が異なることがあります。

治療後に追加費用が発生する条件までしっかり把握しておけば、「保証があると思っていたのに使えなかった」といったトラブルを防ぎやすくなります。

セルフケアと定期検診を続ける

ラミネートベニアを長く使用するためには、施術後の入念なケアが不可欠となります。

毎日の歯磨きに加えて、フロスや歯間ブラシなどを適切に使い、自分で清掃しにくい部分については歯科医院でクリーニングをしてもらいましょう。

ラミネートベニアは治療後のケアが寿命を左右すると言っても過言ではないため、施術後の定期健診を踏まえて無理なく通える歯科医院を選んでおくことも重要です。

口元のお悩みは『矯正歯科クリニック新宿駅前歯科』にご相談ください



きれいな歯並びに憧れるけれど、「費用が高い」「通院が大変」「矯正が目立つのが不安」と感じていませんか？

そんな方は、駅直結で通いやすい『矯正歯科クリニック新宿駅前歯科』『矯正歯科クリニック池袋駅前歯科』（マウスピース矯正ローコスト専門クリニック）にぜひご相談ください。

料金は定額制となっており、部分矯正で17.6万円～66万円（マウスピース矯正ローコスト）、全体矯正は88万円（インビザライン）で追加料金はなし。さらに様々なキャンペーンや特典、ミニッシュによる治療も現在展開中。

当院では、専門スタッフによる丁寧なサポート体制をご用意しています。「医師に言われるがままに治療を進めるのも不安」「いろんな治療方法をしっかり相談・吟味した上で、自分に一番合うプランで治療をしたい」そんな方はぜひお気軽にご相談ください。

➢「新宿駅」直結の専門クリニックの詳細はこちら
➢「池袋駅」池袋院東口徒歩1分の専門クリニックの詳細はこちら